

非感染性疾患(NCDs)に関する国連サミット宣言

非感染性疾患(Non-communicable diseases :NCDs)に関するハイレベルのサミット会議が、2011年9月19-20日国連で開催された。ここに集結した世界30カ国の元首ないし政府代表者、WHO, UICC, その他多くの民間組織や基金の代表者が、NCDs問題は世界規模で取り組むべき21世紀最優先の課題の一つであることを確認し、政策提言を盛り込んだ宣言(Political Declaration)を発表、UN総会はこれを採択した。国連が健康問題に関するハイレベルのサミットを持つことは稀で、2001年のHIV/AIDS以来2度目である。

ここで取り上げられたNCDsとは、がん、心血管疾患、糖尿病、慢性肺疾患である。2008年のWHOの統計によれば、毎年3,600万人がNCDsで死亡しており、その数字は全死亡者の63%である。3,600万人の中900万人は60歳以前の時ならぬ死であり、その数はNCDsによる死亡の25%である。またそのような死亡の90%は低・中所得国で生じている。NCDsとそれによる時ならぬ死は、単に個々人の健康上の不幸や家族の貧窮に止まらず、社会の大きな経済的負担となり、低・中所得国では、国の発展基盤そのものを脅かしているのである。

“宣言”は、低・中所得国家はNCDs克服のための国家計画を作り取り組む必要があること、また高所得の国々は、低・中所得国のNCDs克服は世界的課題であることを認識し、国際協力のもとに以下の方針に沿い全力を尽くすべきであるとしている。すなわち a. 国家計画の立案を助け、b. 情報ネットワークを強化し、c. がん原因因子への暴露減少を図り、d. 緩和治療の普及を可能にし、e. 安価で効果的な薬剤の供給に道をつけ f. NCDsの予防と治療の専門家を育てることである。がんに関しては更に、乳癌や子宮頸部がんの早期発見やスクリーニングを優先的に押し進めることとHBVおよびHPVワクチンの入手を可能にすることが記されている。

UICCは、“宣言”は、UICCが掲げて来た世界対がん宣言11項目の実現に至る重要な一里塚ととらえ、これを最大限に生かして活動を展開して行く方針である。国連サミット宣言を実体化するためには、各国政府への、息の長い、アドボケーションやロビー活動が必要であるが、UICCは世界がん会議、世界対がん一世界的広がりをもつ政策提言キャンペーンが決定的な重要生を持つと考え、世界がん会議、世界対がんデーのイベント、UICCの情報ネットワークなどの機会を生かしつつ運動を展開する。